

TOKYO VERDY



051 BELEZA

2025/26 BELEZA PRESS

岩清水梓選手 引退特別号



2005

2006

2007

2008

2009

2010

2011

2012

2013

2014

2015

2016

2017

2018

2019

2021-22

2022-23

2023-24

2025/26

2024-25

THANK YOU

AZUSA IWASHIMIZU

1999 - 2002 NIPPON TV MENINA
2003 - 2025/26 NIPPON TV BELEZA / NIPPON TV TOKYO VERDY BELEZA

INTERVIEW

DF 33 岩清水 梓

AZUSA IWASHIMIZU

約26年、緑のユニフォームだけを 着てきた自分を誇りに思っています

岩清水梓が、2025/26シーズン限りでの現役引退を発表した。

ベレーザ一筋26年あまり。クラブの黄金時代を支え、なでしこジャパンの一員としても世界の頂点を経験するなど、日本女子サッカーの歴史とともに歩んできた。クラシエカップ初優勝を経て、

長い現役生活の終着点を迎えようとしている岩清水は、今、何を思うのか。

引退を決断した理由、ベレーザへの誇り、そして後輩たちに託す想いを聞いた。

聞き手：馬見新 拓郎

1986年 10月14日、岩手県滝沢村（現滝沢市）に生まれる。

1999年 中学1年から日テレ・メニーナでプレー。

2003年 トップチームデビュー。Lリーグで17試合に出場し、1得点を記録。

2004年 U19日本代表アジア選手権出場。

2005年 Lリーグ1部優勝、全日本女子サッカー選手権大会優勝。ユニバーシアード代表としてトルコ大会にも出場。

2006年 なでしこリーグ優勝、ベストイレブンに選出（この年から2018年まで13年連続で選出）。日本女子代表に選出されロシア戦で代表初出場、アメリカ戦で代表初ゴールを記録。

2007年 FIFA女子ワールドカップ中国大会に出場。クラブではなでしこリーグ、リーグカップ、全日本女子サッカー選手権大会など複数タイトルを獲得。

2008年 北京オリンピックに出場し、日本女子代表は4位。クラブでもなでしこリーグ優勝、全日本女子サッカー選手権大会優勝を達成。

2009年 全日本女子サッカー選手権大会優勝。

2010年 なでしこリーグ、なでしこリーグカップを制覇。日本女子代表では広州アジア競技大会で金メダルを獲得。

2011年 FIFA女子ワールドカップ ドイツ大会で、なでしこジャパンの世界一に貢献。なでしこジャパンの一員として国民栄誉賞、紫綬褒章も受ける。

2012年 ロンドンオリンピックで銀メダルを獲得。クラブではなでしこリーグカップ優勝。

2013年 なでしこリーグ敢闘賞受賞。

2014年 AFC女子アジアカップ ベトナム大会で優勝。仁川アジア競技大会では準優勝。クラブでは皇后杯 全日本女子サッカー選手権大会を優勝しキャプテンとしてカップアップ。

2015年 FIFA女子ワールドカップ カナダ大会で準優勝。クラブではなでしこリーグ1部レギュラーシリーズ、エキサイティングシリーズ上位リーグで優勝。

2016年 リオデジャネイロオリンピックのアジア最終予選に出場。クラブではなでしこリーグ1部、なでしこリーグカップ1部を制す。

2017年 なでしこリーグ1部優勝、皇后杯 全日本女子サッカー選手権大会優勝。

2018年 なでしこリーグ1部、なでしこリーグカップ1部、皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会を制覇。

2019年 なでしこリーグ1部、なでしこリーグカップ1部、AFC女子クラブ選手権、皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会を制覇。なでしこリーグ特別賞を受賞。

2020年 3月に第一子を出産し、その後も現役を続行。クラブは皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会を制した。

2021年 日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」が開幕。出産を経て約1年9か月ぶりに実戦復帰。

2022-23年 皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会優勝。

2024-25年 2024-25 SOMPO WEリーグ優勝。クラブにとっても大きなタイトル獲得に貢献。

2025-26年 2025/26シーズン限りでの現役引退を発表。2025/26 WEリーグ クラシエカップ決勝でRB大宮アルディージャWOMENに2-2、PK3-1で勝利。岩清水もPK戦で成功し、クラシエカップ初優勝を達成。

クラシエカップ、 準決勝前に伝えた引退

——4月29日に決勝が行われた2025/26 WEリーグ クラシエカップで、ベレーザが初優勝を収めました。

「昨年10月にグループステージ(以下GS)が始まったので、今思えば長い戦いでした。GSでは本当にギリギリの試合もありましたが、勝たなければいけない試合でしっかり勝てたからこそ、突破できたのだと思います。準決勝の相手はサンフレッチェ広島レジーナで、ホーム&アウェイ方式は私自身もあまり経験がありませんでした。アウェイでの第1戦は2-3で敗れてしまい、その後、2回目の練習日のチームミーティングで少し時間をもらって、チームメイトに引退を報告しました。このタイミングで報告しないと後悔すると思ったし、第2戦で100%以上の力を出して広島を上回るために、もう一度チームがまとめるきっかけになれば、とも思ったからです」

——第2戦は3-1で勝利し、2戦合計で決勝進出。RB大宮アルディージャWOMENとの決勝も2-2(PK3-1)の末に逆転勝利を収めました。岩清水選手はPK戦で2人目のキッカーを務め、ボールがクロスバーに当たり、さらに相手GKの体に当たってゴールに入るという、記憶に残るPKを決めました。

「サッカーの神様がいるとは聞いていましたが、これまで一度も私に微笑んでくれたことはなかったように思います。でも、あの日は微笑んでくれました(笑)。大宮は勢いがありましたし、ベレーザはもったいない試合の入り方をして失点してしまいました。ただ、(小林)里歌子が1点を返してくれて、延長では(北村)菜々美が逆転弾を決めてくれました。延長後半の失点も本当にもったいない形だったので、そこはベレーザの緩みや弱さでもあります。GSでもPK戦はありましたが、2試合とも負けていますし、私の在籍中はベレーザがPK戦で勝った記憶がありません。しかも終盤に追いつかれてPK戦に持ち込まれる流れは不利だと言われています。カツオ(村松智子)に聞いたら、PK戦前のコイントスにも負けて大宮サポーターの前で蹴ることになり、その後の先攻・後攻を決めるコイントスにも負けて、ベレーザが後攻になったらいいです(笑)。2015年度の皇后杯準決勝では、等々力でアルビレックス新潟レディースにPK戦で敗れたこともあったので、内心では『絶対にヤバイ』と思っていました。ただ、PKの練習はしていたので、上方向に蹴る怖さはなかったです」

——ベレーザで自身27個目のタイトルとなりました。「WEリーグカップ(クラシエカップ)はまだ獲っていませんでしたので、ここで優勝できてよかったです。私はこれまでベレーザやなでしこジャパンで何度もタイトルを手にしてきましたが、勝敗を分けるのは本当にわずかな差なのだと、勝負の厳しさを久々に感じた大会でもありました。今回も優勝と準優勝は紙一重でしたが、優勝チームは何年も記録に残り、準優勝チームはなかなか記憶に残りにくい。タイトルを獲るか獲らないかに

は、本当に天と地ほどの差があります」

「もう1シーズン」。 今季に懸けた思い

——選手引退に心が傾き、決断したのはいつでしたか？

「実を言うと、昨季限りで引退するとチームには伝えていました。ただ、昨季はケガでリハビリになることになり、シーズンの半分くらいは戦って、そのまま引退しようと思っていました。その中で復帰が遅くなってしまい、第21節でベンチ入り、最終節の第22節で途中出場ただけでシーズンが終わってしまったんです。だから『もう1シーズン、プレーさせてください』と伝えて、引退を撤回させてもらいました。今季は開幕前のキャンプで少しケガをしてしまいましたが、その後は大きなケガもなく、通年で活動することができました」

——試合中の局面やコーチングを見ると、まだまだプレーできるような思えます。

「そう言っただけのはうれしいですが、皆さんが見ている感覚と、私自身の感覚や評価は違って、納得のいくパフォーマンスができなくなったことが引退の理由です。これまでは『絶対に抜かれない』という自信があったからこそ、チームを引っ張っていく気持ちでプレーできていました。でも、だんだん走り切れない場面や、相手に追いつけない場面が出てくると、周りを動かす自分の指示にも説得力がなくなってくるんです。私だったら、そういう人には言われたくないと思うでしょう。だから、自分にも言う資格がない。これは私の中の線引きです。チームミーティングで引退を伝えるときは、感情的になって、私が一番泣いていたかもしれないですね(笑)。クラシエカップの準決勝第2戦は、今まで以上の力を発揮しなければ勝てないと、みんなも分かっていたと思いますが、それをしっかり口にして、有言実行することが大事だったので、選手だけのミーティングで『もう一度、戦う姿勢を見せよう』と伝えました。

——なでしこリーグを含めて国内300試合以上に出場し、リーグ4連覇など黄金時代を築き、13年連続ベストイレブンという偉業も打ち立てました。「約26年、ヴェルディグラウンドに通い続け、緑のユニフォームだけを着てきた自分を誇りに思っています。悩んで、悩んで、ここまで来ましたが、ベレーザで選手人生を終えられる選択をしてきてよかったです。黄金時代を知っているからこそ、順位が沈むベレーザが許せなかったですし、勝つためにみんなで模索して、また勝てるようになっていくベレーザというチームに飽きることはありませんでした。先輩方に最高の景色を見せてもらったので、私がキャプテンになってからは、そうやって受け継いできたものを後輩たちに伝えていく使命感もありました」

ベレーザのDNAとして 残してほしいもの

——ベレーザの伝道師である岩清水選手から、現在のベレーザの選手たちへラストメッセージを

お願いします。

「サッカーは、丸いボールを蹴るだけのスポーツではありません。喋って、伝えて、味方を動かして、ゲームも動かす。それがサッカーなので、それができないと本当の意味でうまい選手とは言えないと思います。私自身、今でもコーチングやヘディング、スライディングなど、今のチームメイトに負けていない部分はいっぱいあると思っていますが、今のベレーザはアピールが下手な選手が多い。今、試合に出ている選手たちも、もっともっと上手くなれるので、ベレーザサッカーの追求を続けてほしいです。カツオを中心に後輩たちは分かっていると思いますが、タイトルを獲ることがベレーザの使命であり、タイトルが一番似合うのもベレーザです。そこはプライドとして持っていてほしいですし、このチームのDNAとして残り続けてほしい。それを続けるためには、日々の練習しかありません。だからこそ高い要求もしてきましたし、タイトルを獲っても、追求する努力は止めないでほしいと思います」

——最終節の新潟L戦は、味の素フィールド西が丘で選手としてプレーする最後の機会です。

「西が丘は、もう私の日常になっていますが、初めて出場した時の感情は今でも覚えています。ピッチと客席が近いあの臨場感には本当にワクワクしますし、いい思いも、悔しい思いも味わえて本当に感謝しています。5月20日からはAFC女子チャンピオンズリーグ準決勝も残っているので、必ず勝って、みんなに笑顔で手を振りたいです。あと、実はWEリーグで私はまだ無得点なので、まずは試合に出場して、あわよくば初得点も狙っています」

——引退後については、どのように考えていますか？

「引退を発表してから、実はまだ何の実感もないのですが、6月からはA級ライセンスを取りに行く予定です。サッカーから離れないように勉強しながら、解説の仕事も好きなので、それも続けていきたいと思っています。ただ、小学校低学年の子どもの成長も見たいので、今後はお母さん業も増やしつつ、サッカーからも離れずに過ごしていきたいです。私は小学1年生からサッカーを始めて、ピッチから離れたことがないので、この先の自分がどうなっていくのか、楽しみです」



PROFILE 岩清水 梓(いわしみず・あずさ)

1986年10月14日、岩手県滝沢村(現滝沢市)出身。163cm/57kg。育成組織からベレーザ一筋のDF。2003年にトップチームデビューし、なでしこジャパンでは2011年女子W杯優勝、2012年ロンドン五輪銀メダル、2015年女子W杯準優勝に貢献。クラブでも数々の国内タイトルを獲得し、出産を経てピッチに戻るなど、女性アスリートの先駆者の一人でもあった。2025/26シーズン限りで現役生活に区切りをつける。



大会レポート

勝負強さを示し、クラシエカップ初優勝を達成

国内3大会の一つであるクラシエカップは、今大会からグループステージでPK戦を導入。ベレーザは第1節の千葉L戦で0-0のままPK戦に突入り、PK4-5で黒星スタートとなった。それでも第2節で逆転勝利を収めると、第3節では成長著しい樋渡百花のゴールで2連勝。第5節では小林里歌子のハットトリックなどでAC長野に逆転勝ちし、GS最終節も2-1で勝利。4勝2PK負けの成績でグループ1位通過を果たした。広島との準決勝第1戦は、相手を上回る数のシュートを放ちながらも2-3で敗戦。しかし、西が丘で行われた第2戦では、村松智子らの得点で3-1と勝利し、2戦

合計で上回ったベレーザが決勝へ駒を進めた。

大宮との決勝は、開始3分に失点する苦しい立ち上がりとなったが、小林の今大会6点目で同点に追いつき、試合は延長戦へ。延長でも互いに1点ずつを奪い合い、120分を終えても決着はつかず、勝負はPK戦にもつれ込んだ。PK戦では岩清水梓らが成功させる一方、GK大場朱羽が2本をセーブ。決勝のPOMに輝く活躍を見せ、2-2 (PK3-1)で逆転勝利を収めた。苦しい試合を幾度も乗り越え、最後まで勝負強さを示したベレーザが、クラシエカップ初優勝を成し遂げた。

2025/26 WEリーグ クラシエカップ グループステージ

節	日時	対戦	スコア
1	2025.10.26 (日)	ジェフ千葉レディース	0-0 [PK4-5]
2	2025.11.30 (日)	AC長野パルセイロ・レディース	0-3-1
3	2026.03.01 (日)	マイナビ仙台	0-1-0
4	2026.03.07 (土)	マイナビ仙台	0-0 [PK3-1]
5	2026.03.15 (日)	AC長野パルセイロ・レディース	0-3-4
6	2026.03.21 (土)	ジェフ千葉レディース	0-1-2

2025/26 WEリーグ クラシエカップ ノックアウトステージ

節	日時	対戦	スコア
準決勝 第1戦	2026.04.12 (日)	サンフレッチェ広島レジーナ	● 3-2
準決勝 第2戦	2026.04.18 (土)	サンフレッチェ広島レジーナ	○ 3-1
決勝	2026.04.29 (土)	RB大宮アルディージャWOMEN	2-2 [PK1-3]

AFC女子チャンピオンズリーグ 2025/26 グループステージ

節	日時	対戦	スコア
1	2025.11.09 (日)	ネコヒヤン女子蹴球団 (朝鮮民主主義人民共和国)	0-4-0
2	2025.11.12 (水)	ISPE (ミャンマー)	0-1-1
3	2025.11.15 (土)	水原FC (韓国)	△ 0-0

AFC女子チャンピオンズリーグ 2025/26 ノックアウトステージ

節	日時	対戦	スコア
準々決勝	2026.03.28 (土)	スタリオン・ラグナ (フィリピン)	0-5-0
準決勝	2026.05.20 (水)	メルボルン・シティFC (オーストラリア)	-

「AFC女子チャンピオンズリーグ準決勝・決勝」を、日テレジータス・DAZNにて生中継!

準決勝 | 5月20日 (水) 14:00キックオフ

放送日程

日テレ・東京ヴェルディベレーザ vs メルボルン・シティFC (オーストラリア)

決勝 | 5月23日 (土) 14:00キックオフ

日テレジータス:スカパー! (CS257)、スカパー!プレミアムサービス (Ch.608) そのほかJ:COM、全国のケーブルテレビ、ひかりTV、auひかり、DAZNなどでご覧いただけます。

視聴方法